

農技セ第6501号
平成28年4月26日

各関係機関長 殿
病害虫防除員

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

平成28年度農作物病害虫発生予察情報について

平成28年度農作物病害虫発生予察特殊報第1号を発表したので送付します。

平成28年度農作物病害虫発生予察特殊報第1号

平成28年4月26日
徳島県

1 病害虫名
キュウリ退緑黄化病

2 病原ウイルス
ウリ類退緑黄化ウイルス *Cucurbit chlorotic yellows virus* (CCYV)

3 発生作物
キュウリ

4 発生地域
小松島市

5 発生概況

平成28年4月、徳島県小松島市の施設栽培キュウリ(促成栽培)において、下位葉を中心に葉が黄化し、葉縁が下側に巻く症状および退緑症状が発生した。

徳島県立農林水産総合技術支援センター資源環境研究課で DAS-ELISA 法および RT-PCR 法により退緑した葉を検定したところ、*Cucurbit chlorotic yellows virus* が検出された。症状も既報と一致していたことより、本県では未発生の *Cucurbit chlorotic yellows virus* によるキュウリ退緑黄化病と判定した(図1)。

本病の発生は、平成20年以降これまでに沖縄を除く九州全県、山口県、広島県、高知県、愛媛県、和歌山県、愛知県、静岡県、神奈川県、埼玉県、千葉県、栃木県、群馬県および茨城県で確認されている。

6 病原ウイルスの性質および伝染

本ウイルスは、クリニウイルス属に属し、タバココナジラミのバイオタイプ B および Q が媒介する。タバココナジラミは、本ウイルスに感染した植物を吸汁することでウイルスを獲得し、媒介能力を数時間から数日間保持する。

なお、本ウイルスは経卵伝染、汁液伝染、種子伝染および土壌伝染はしないことが知られている。これまでに自然発生が確認された作物は、キュウリ、メロンおよびスイカである。

7 本病の症状等

(1) 退緑型病斑

葉の葉脈間に多数の退緑小斑点を生じ、拡大、癒合しながら、不鮮明なモザイク症状となる。さらに進展すると、葉はツヤを失い、葉脈の縁だけを残す退緑～黄化葉となり、しばしば下側に葉が巻く(図1)。

(2) 黄斑型病斑

タバココナジラミが吸汁した葉では、葉脈で区切られた一部分または全体の葉脈間が放射状に黄化し、葉脈の縁を残す黄化葉となる。

(3) 発病の特徴

黄斑型病斑と退緑型病斑は、同一株に発生する。黄斑型病斑は保毒したタバココナジラミが吸汁加害した葉に、退緑型病斑は保毒虫の吸汁加害以降、新たに展開した上位葉あるいは側枝の葉に出現し、上位方向へ進展する。

生長点付近の数枚の葉には症状は現れず、成熟した葉のみ症状が現れるため、同一株内に黄化葉と健全葉が混在する。

(4) 収量への影響

発病株は葉が黄化することで草勢が低下し、発病1か月後から減収の被害が認められ、発病時期が早いほど減収率は高くなり、最大で30%に達するという報告がある。

しかし、今回、本県で発生が確認された施設では、栽培後期であること、また、媒介虫であるタバココナジラミの発生も確認されていないため、今後の被害拡大や収量への影響は小さいと考えられる。

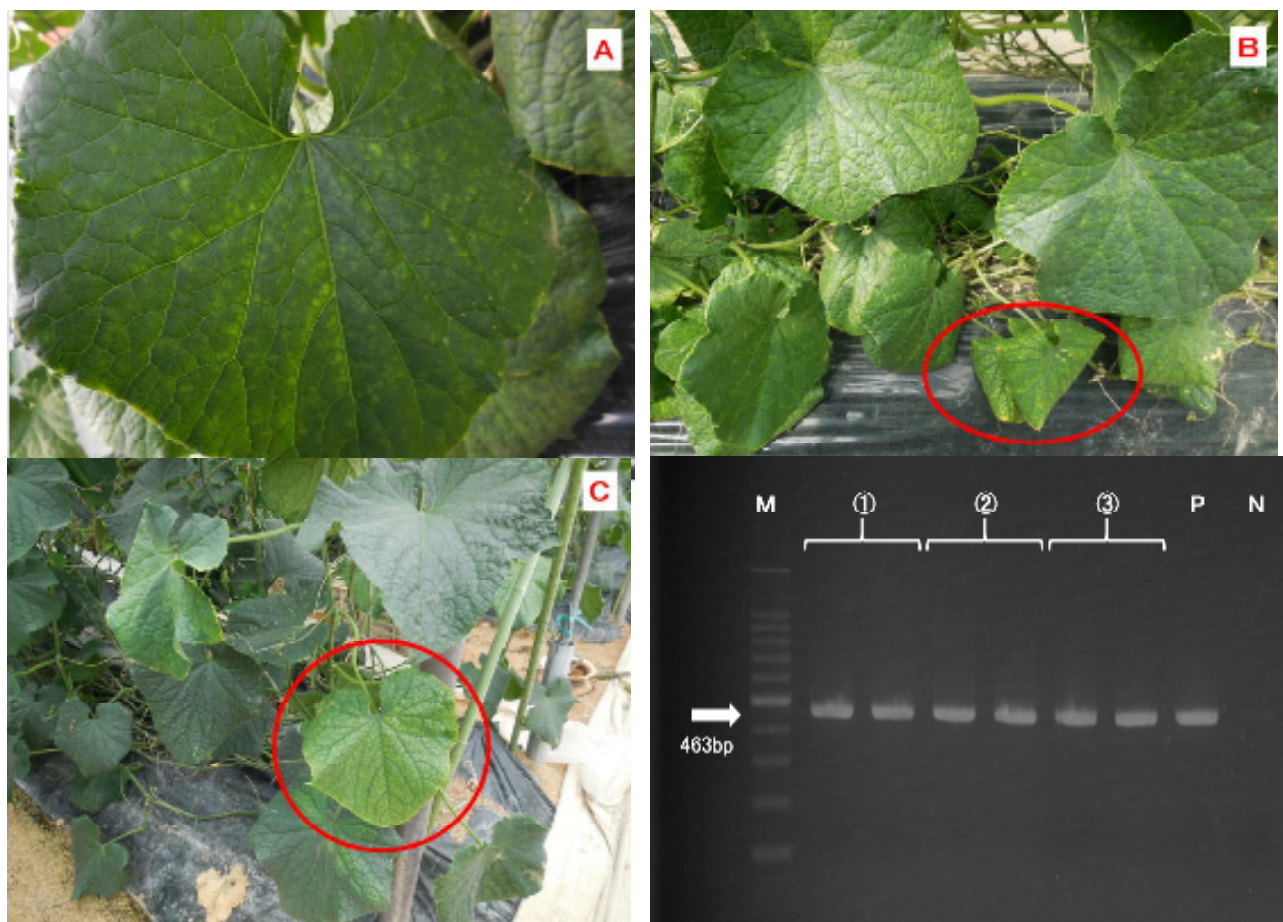


図1 CCYVによるキュウリ葉の病徴およびRT-PCR法によるCCYV検定結果
注1) A: 退緑小斑点, B: 葉巻き症状, C: 黄化症状

注2) M: マーカー, ①~③: 供試試料, P: ホジティブコントロール, N: ネガティブコントロール, 矢印: 463bp

8 対策

- (1) 育苗期にタバココナジラミの防除を徹底し、本圃に持ち込まない。
- (2) 施設の開口部に防虫ネット(目合い0.4mm以下)を展張し、タバココナジラミの侵入を防ぐ。また、紫外線カットフィルムや光反射資材等も活用する。
- (3) 黄色粘着トラップを設置し、タバココナジラミの早期発見と施設内への侵入防止に努める。
- (4) 施設内および施設周辺の雑草は、タバココナジラミの発生源となるので、防草シートを設置するなど、除草を徹底する。
- (5) 媒介虫であるタバココナジラミを対象に、育苗期または定植時のネオニコチノイド系粒剤の施用や生育期間中の定期的な薬剤散布を行う(表1)。特に、定植直後の感染は大きな被害に繋がるので、この時期の対策を重視する。なお、タバココナジラミの薬剤感受性の低下防止のため、同一系統薬剤の連用は避ける。
- (6) 発病株は伝染源となるので、見つけ次第抜き取り、ビニル袋等に入れ、完全に枯れるまで密閉処理してから処分する。また、摘葉や摘芯した作物残渣は、野外に放置せず、同様に処分する。
- (7) 栽培終了時には、抜根または地際から切断した上で、施設を密閉処理して、作物を枯死させるとともにタバココナジラミを死滅させる。

表1 キュウリ登録でタバココナジラミに効果のある主な薬剤(登録内容:2016年4月19日現在)

使用時期	系統	薬剤名	希釈倍数使用量	使用時期	使用回数	備考
育苗期 または 定植時	ネオニコチノイド系	アルバリン粒剤 または スタークル粒剤	1~2g/株	育苗期 または 定植時	1回	育苗期と 定植時で、 合計1回。
		ベストガード粒剤	1g/株	育苗期	1回	
			1~2g/株	定植時	1回	
		ダントツ粒剤	1g/株	育苗期後半	1回	
			1~2g/株	定植時	1回	
アクタラ粒剤5	1g/株	定植時	1回			
定植後	ネオニコチノイド系	アルバリン顆粒水溶剤 または スタークル顆粒水溶剤	2000~3000倍	収穫前日まで	2回以内	
		ダントツ水溶剤	2000~4000倍		3回以内	
		ベストガード水溶剤	1000~2000倍		3回以内	
	マクロライド系	アニキ乳剤	1000倍		3回以内	
		コロマイト乳剤	1500倍		2回以内	
	その他	サンマイルフロアブル	1000~1500倍		2回以内	
		コルト顆粒水和剤	4000倍		3回以内	